

かがやく杉谷っ子のために

ONE TEAM



島原市立第四小学校

学校だより No.163

令和6年2月2日(金)

文責：校長 大槻浩二

リーダーの姿を受け継ぐ

3 学期も早いもので2月に入りました。今年はどういう年とは言え、2月は29日間しかありませんので、「逃げ月」と言われるように短く感じてしまいそうです。6年生は卒業式に向け、他の学年は進級に向け1日1日を大切にしたいと願います。

さて、本校では昨年度より、6年生から新高学年(4・5年生)への引継ぎを早めています。登校班は、リーダーとして交代で4・5年生が務め、その見守りを6年生が行っています。委員会活動の新年度編成も3学期すぐに行い、1月末には新委員会が発足し、すでに始動しています。

引継ぎを早めたことには、大きな意図があります。「伝統の継承」です。6年生は、自分たちが担ってきたリーダーの責任と役割を時間をかけて丁寧に引き継ぐ。新しいリーダーの4・5年生は、リーダーとしての自覚と重みを時間をかけて感じる。



「四小スタンダード」という児童会を中心とした4年間の取組を通して育ててきた「自分たちの学校は自分たちの手でよりよくなっていく」という伝統を継承してほしいと思います。このことで、4月のスタートもスムーズにいけます。

この継承の姿がとても素敵です。委員会活動では、6年生が4年生に寄り添い、朝の活動や昼休みなどで教えながら一緒に活動している姿が素晴らしく微笑ましい。

6年生は、伝える側として丁寧にわかりやすく、大事なことをポイントを絞って教えてあげる工夫が必要です。それが、託す者の役目です。4・5年生は、新リーダーとしての自覚をもって、6年生への感謝の気持ちを持ちながら少しずつ自分のものにしていく。それが、受け継ぐ者の役目です。お互いにリスペクトしながらバトンをつないでほしい。



明るい選挙書道作品 入賞おめでとう！



令和5年度明るい選挙書道作品展の入選者が発表されました。書道展は、下記のとおり開催されますので機会がありましたらご覧ください。

- ・日時 令和6年2月 7日(水) ~ 令和6年2月21日(水)
- ・場所 島原市役所1階エントランス

○特選

- (3年生) 村里 葵
- (4年生) 金子 来斗 平坂 佑心
- (5年生) 松本 一伸 松本美央理
酒井 麻子
- (6年生) 苑田 蒼依

○入選

- (3年生) 安部 恵和 網本 千夏 石本 幸也
小林 駿太 下岸 陽智 豊梶 爽愛
宮崎 愛未 山田 優梨 岡本 琉輝
- (4年生) 永川 千陽 太田 絢翔 杉永 凜央
苑田 航一 永尾 咲来 平尾 春瑠
松本 彩萌 松本 小雪
- (5年生) 宮崎 陽向 宮崎仁衣那 副島 花那
北澤 咲菜 下岸 美羽 馬場 理功
宮崎響太郎
- (6年生) 網本 瑛仁 石田 柚音 永川 愛
土本 愛羽 永尾 祐惺 林田 佳剛
堀川 真鈴 本多 小雪 吉岡帆乃香

「あきらめる心」と「がんばり抜く心」

全ての子どもに当てはまることではないと前置きをして。ある経営者の話。最近の若者は、「がんばれない心」「すぐにあきらめる心」を持つ若者が多いらしい。「無理！」「心が折れた」というセリフを安易に口にしてしまうようだ。

その要因の一つには、幼少期の過保護な環境にあるのではないかと問う。

無理をさせると子ども心に負荷がかかる、負荷がかかると心が折れてしまい、ときにトラウマになるのではないかと不安が過保護を生むという。しかし、それは、虐待やいじめのように深刻な事態について当てはまることである。深刻な事態は、大人が子どもを守るのは当然だ。わが子に降りかかる火の粉は払いのけてやりたいと思うのが親心だろう。しかしながら、普通の負荷から過保護にするだけでは子どもに力がかからない。人生は思い通りにならないことだらけだ。そんな人生を力強く前向きに生きていくには、思い通りにならない状況に置かれた時も粘り強く自力でがんばり抜く力をつけさせることである。がんばることで逆境を乗り越えた場合、達成感を得られるし、自己肯定感につながりあきらめない心を強くしてくれるに違いない。

もちろん、いくら頑張ったところでうまくいかないこともある。むしろそのことが多いかもしれない。挫折感も味わうかもしれない。ここで大切なのは、「ものの見方」「受け止め方」である。

上手いかなかったときの「結果」だけを見れば、挫折感が表に出るが、「プロセス」を重視すれば、結果が失敗であってもがんばったことの方がすがしさを充実感が心に表れるであろう。

「あきらめない心」を育てるなら逆境を経験させないというのではなく、逆境に負けないものの見方や受け止め方を身につけさせたい。「子どもの背中をおす」親の姿勢が子どもの生き抜く力を生む。

